

ツマジロクサヨトウの発生の確認について

鹿児島県から南九州市の1ほ場で栽培されている飼料用トウモロコシにおいて、ツマジロクサヨトウと疑わしい虫を発見したとの連絡を受け、植物防疫所で同定を行ったところ、本日、我が国未発生のツマジロクサヨトウ (*Spodoptera frugiperda*) であることを確認しました。

本虫の発生を受け、農林水産省では、鹿児島県と連携し、周辺地域における発生状況を調査しているところであり、併せて、生産者の協力を得つつ、発生が確認されたほ場における初動防除を行います。

本虫は、海外の知見等によれば、これまで国内で発生しているヨトウムシ類と同様、的確な防除の実施により被害の軽減が可能であると考えています。

本虫の防除には、早期発見が重要であることから、疑わしい虫を見つけた場合は、都道府県病害虫防除所又は植物防疫所までご連絡をお願いします。

※都道府県病害虫防除所の所在地一覧

http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120105_boujoshou.html

(農林水産省ホームページ)

各植物防疫所(国内検疫担当)の問合せ先

<http://www.maff.go.jp/pps/j/guidance/outline/contact.html>

(植物防疫所ホームページ)

<添付資料>

ツマジロクサヨトウとは

ツマジロクサヨトウとは

【分布】

北米～南米、アフリカ（サハラ以南）、アジア（インド、中国、タイ、ミャンマー等）。
日本未発生。

【寄主植物】

アブラナ科（カブ等）、イネ科（イネ、トウモロコシ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（トマト、ナス等）、ナデシコ科（カーネーション等）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）などの広範囲な作物

【形態・生態】

成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、オスのみ前翅中央部に黄色い斜めの斑紋を持つ。終齢幼虫は体長約40mm。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、メスの体毛で覆われる。

本種は暖地に適応した種（南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産）であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできない。

【被害】

幼虫が植物の葉、茎、花並びに果実を加害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。



図1 ツマジロクサヨトウ (♂)



図2 ツマジロクサヨトウ (♀)



図3 ツマジロクサヨトウ (幼虫)